

●京都府地域交響プロジェクト交付金申請について 次の取り組みを行ってきました

宇治振興局へ24日に第1次の申請を行いました。28日には第2回目の申請修正にうかがいました。それぞれ2回の申請では、子育て部門での地域課題について詳しく示してほしいと注意助言をいただきました。3回目の修正申請目指して、大苦戦をしています。

●同志社大学ボランティア募集のための視察体験取材 6月25日

同志社大学生の皆さんが地元京田辺市の活動団体の手助けをしようと考えてその照会できる作業を体験して、得られた経験を紹介していく試みに4名の方々が来訪されました。予定の10時より1時間も早く里山農園に到着され、やる気満々でした。この日は約1時間の里山の会の活動紹介のあと、12月に同志社大学のサッカー部が草刈りをしていただいた丸山にドングリなどの若木を移植しました。スコップや鎌、鍬などの農具を使用するのは初めてだったので、使用方法を伝えて10時30分ごろには植樹が完了しました。



●事務局会議で北陸新幹線について学習会を開きました 6月29日

今京田辺市や京都府で話題になっている「北陸新幹線」の京都南部京田辺市を通過しその駅が松井山手が候補地にと叫ばれています。会員の佐藤誠さんから、4つの疑問についておはなしをうかがいました。①京田辺市に北陸新幹線が必要なのか ②ルートが変更されて莫大な地元負担になるのではないのか。③京田辺市の財政負担が考えられるが大丈夫なのか ④深い地下トンネルを掘って地下水や残土処理が心配だ。などについて学ばれた点を解説いただきました。いただいた資料は事務局にありますので、どなたでもご覧になっていただけます。

●ヤマトサンショウウオの生息地調査の感想文 西野護さんから頂きました。原文のまま掲載

ヤマトサンショウウオ生息地調査 雲ヶ畑・足谷 人と自然の会 西野 護

今回の調査目的は、「ヤマトサンショウウオの餌になる動物群集や湿地環境の特徴と現状を把握することにあります。今後、ヤマトサンショウウオの生息地を保全していくために、現状の課題や対策を検討する必要があります」とありましたので、調査日当日、私は主に生息湿地（旧水田）およびその周辺を歩き植物などを中心に観察しました。明確な役割分担があったわけではないので、隈なく調査することはできませんし思い付き的で極めて不十分なものでしたが自分なりの目で見えた植物種の観察結果を報告します。

①確認した植物種

エノキ・コナラ・コシアブラ・タカノツメ・コウヤボウキ・イヌビワ・マダケ・ハエドクソウ・イチヤクソウ・コ克蘭・ウド・ヒョドリジョウゴ・ミゾソバ・キツネノボタン？・シダ植物オシダ科？などで、種数は少なく湿生植物はほとんど見られませんでした。

②生息湿地の環境

湿地内（旧水田）の植物種はゼロまたはキンポウゲ科1種で極めて貧弱でした。棚田の履歴は不明ですが、日照良好な水田跡なら中～富栄養環境に適応する湿生植物が残存していてもいいはずですがこれがありません。ミゾソバは湿地内ではなく、花崗岩質の岩石が風化してできた細流脇に小群落がありました。コナラの大木が湿地周辺を囲むように相当数見られましたがかつては水田

の周りに卓越し開けた半日陰の環境だったのでしょう。これにかわりマダケの進入が著しいこと、湿地周辺部を覆い日照条件の悪化を招くとともに他植物が生育できない暗化空間をつくり出したのでしょうか。マダケの葉も旧水田（ヤマト生息場所）に溜まり、分解が進んでいないようにみえました。放棄水田はマダケの進入により日照地から日照不全地へと遷移が進行していると容易に想像できます。現状ではヤマトサンショウウオだけでなく生物が生育できる環境としては劣悪な部類に入るかもしれません。山際の旧水田湿地周辺の環境変化とヤマトサンショウウオの消長・数的変化との関連性を確認し、人為的な環境改善や「域内保全」対策の検討が課題になるものと思われます。

③今回調査のねらいなどに関しては参加者各自が自分の判断で参加しそれぞれの成果を意見交流会の場で感想的に述べ合うことになりました。有意義な場になりましたが、水質・採取確認生物などの確認を踏まえてより突っ込んだ議論があってもよかったのではないかと思います。

④「農園」の活動について

自分の為にも環境保全のためにもなり知る喜びや自然に働きかける喜びを共有できる取り組みとしてよく考えられた活動だと思いました。周辺住民が気軽に里山の維持・保全活動に参加できる地域に根差す保全活動の一形態で、私たちの会も学びたいと思いました。

●竹門先生からヤマトサンショウウオ生息池の水質検査の結果

生息場環境上で一番問題になる水質項目はDO(溶存酸素濃度)のようです。DO濃度が10%を切ると通常の鰓呼吸をする魚は住めなくなります。ただし、

打田放棄田湿地調査 測定者：竹門康弘							
年月日	2022/6/4	2022/6/4	2022/6/4	2022/6/4	2022/6/4	2022/6/19	2022/6/19
地所	打田	打田	打田	打田	打田	打田	打田
地点名	池1	池2	湿地3	湿地4	池5	池1	池2
標高(m)	104	108	112	116	120	103	108
時刻	12:24	11:53	11:35	11:12	10:37	10:50	11:20
天候	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ
大気圧(hPa)	999	1000	1000	999	999	994	990
測定水深(cm)	5	5	3	3	8	5	5
水温(°C)	20.4	21.2	20.3	18.7	17.1	20.5	21.2
EC(ms/m)	8.86	9.26	9.29	9.50	9.45	9.66	9.26
濁度(NTU)	5.8	26.5	42.5	24.0	64.7	4.9	210
COD(mg/L)	20	30	20	20	20	8	10
DO(mg/L)	4.40	1.25	0.28	0.20	0.51	4.17	0.22
DO(%)	49.7	14.6	3.2	2.1	5.5	50.0	2.5
pH	6.8	6.2	6.2	6.2	6.2	6.8	6.2
No3-N(mg/L)	0.2	<0.2	<0.2	0.2	0.2	<0.2	<0.2
NH4-N(mg/L)	0.2	0.2	0.2	0.2	0.7	0.2	<0.2
PO4-P(mg/L)	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02

表層と下層で変わるので、測る水深によって異なります。池2の値が6/4と6/19で違うのは、6/4は南側の水深のある表層水で測定したのに対して、6/19は池中央よりもやや北側の泥が深い場所の表層で測定したために、後者の方が酸素が少ない場所になっていたと思われます。実際水生昆虫の多い場所は、南側の水深のある場所でした。

●ジャガイモ掘りを実行 参加費無料 必要な方は大玉3個100円で購入下さい 7月2日 10時から

●昆虫観察会 オオムラサキを見つけよう 7月3日 10時から 現在7組22人の参加申し込みあります
指導 前近畿大学教授 桜谷先生においでいただく予定です。ホームページから申し込みを

収穫しよう ジャガイモほり

参加者募集

今年は野菜が高値で推移していますね。農作物が大きく成長する時期の気温が低かったり日照時間が少なかったりしたことに影響されていたのではなかったのでしょうか。里山の会の里山農園では前年度に十分堆肥を追加していたので、しっかりした玉ねぎが収穫できました。これまでになく完売できました。買っていただいたお方には大変喜んでいただきました。今回のジャガイモ堀りはいかがでしょうか。肥料が十分効いていれば大きな芋が収穫できると期待しています。必要なお方には掘りたてのものを原価でご購入いただけます。

7月2日(土)

10時から作業を始めます

約1時間の作業時間の見込みです。

参加料 無料 申し込みは現地受付 人数制限なし

服装 長袖の上着 長ズボン しっかりした靴

持物 水筒 帽子 手ぬぐい 作業用の手袋

ジャガイモの絵を描く

あれば色鉛筆(各種)

全作品を市文化祭で展示発表予定

画用紙は里山の会で用意します

(用紙は A3)

指導 理事長 大村幸正

主催

特定非営利活動法人
NPO やましろ里山の会

住所

京田辺市田辺深田 15

電話

0774-64-4183 (FAX 兼)

オオムラサキの観察会

(夏の生き物観察会)



京田辺市普賢寺谷の里山には、オムラサキの食草のエノキと、オオムラサキの成虫の餌になるクヌギやコナラ等樹液の出る雑木林があり、カナブンやクワガタムシ等と一緒に木の幹に集まり、年に1回6月～8月初旬にかけて発生し樹液を吸いに集まっています。

産卵した卵はエノキの葉を食べ成長しますが12月頃に木を伝って下に降り、落ち葉の裏で越冬をします。エノキの葉が芽吹く4月に木を登り脱皮を繰り返しながら6齢(終齢幼虫)7センチ程の大きさになり、エノキの葉の裏で蛹になります。成虫に羽化するのは初夏の6月頃からです。数100個の卵を産んでも野鳥に食われたり、ハチ、クモ、カメムシ等に襲われたりして成虫になれるのはごくわずかのようです。

気品のある美しさで翅を広げると雄は10センチ雌は12センチ程もあり羽ばたきは機敏で、滑空をするような飛び方です。幼虫の食べるエノキと成虫の食べる樹液を出すコナラ等の雑木林がなければ生きていけません。京田辺の里山は条件を満たした自然のある環境でオオムラサキも生息をしているようです。

オオムラサキの雄は青紫色に輝き、日本を代表する国蝶として日本昆虫同好会で決定されました。昔に比べると環境の変化で減少しておりレッドリストでは準絶滅危惧種に位置づけられています。この環境を保全してオオムラサキの飛翔を見守りましょう。

やましろ里山の会では2007年から調査をしてきましたが、蝶の確認は数回のみです。今回もオオムラサキが観察できるかどうかはわかりませんが、夏の里山には多くの生き物がいますので、それらも観察して楽しみたいと思います。

今回は本会の顧問である、前近畿大学教授桜谷保之先生にも来ていただき、いろいろと教えていただきたいと思います。

日時		令和4年7月3日(日) 小雨決行
		午前10時～午前12時
場所		里山農園(京田辺市水取菰谷)
駐車場		農園前に20台分の駐車場があります
集合場所		9時40分 京田辺市立普賢寺小学校前
		(里山農園がわかる場合は直接農園へ)
持ち物		水筒、筆記具、手ぬぐい、カメラなど
服装		長袖、長ズボン、長靴を奨励、手袋、帽子
申込み		先着10組 名前、年齢(学年)、住所、電話、メールアドレスを 専用フォームから入力してください。(ここをクリック) 6月25日から受け付け開始します。